2.4　古代中国の思想

2.4.1　古代中国思想と諸子百家

孔子以前の中国思想

・殷（前 17 世紀頃～前 11 世紀）…神権政治

自然を支配する最高神としての**上帝・祖先神**の崇拝

（　　）：亀の腹甲や獣の骨を火にあぶり，その亀裂によって，軍事，祭祀，狩猟といった国家の大事を占った。占いのことばを亀甲獣骨に刻んだものが卜辞，すなわち甲骨文字。

・周（前 11 世紀～前 256）…（　　）政治：周の王朝は一族を諸侯に封ずるという封建制度の上に成立していた⇒家族結合が天下の秩序を支える原理

上帝　→（　　）：天上の最高神，自然の主宰者であると同時に**有徳な統治者**。

cf.（不徳の殷王（紂王）を滅ぼし周の文王・武王が）「天の有する大命を受く」

天子：天（帝）の息子として，（　　）に基づいて天下を統治する者。

亀卜　→（　　）：筮竹による占い。陰陽二気が様々に組合わさり，変動しつつ宇宙の森羅万象を形成するという考えを基本とする。僞陰爻（こう）と僖陽爻とを 3 本重ねることによって作られた 8 種類のパターンを八卦（はっか）という。すなわち僭乾（けん），僭兌（だ），僮離（り），價震（しん），僵巽（そん），儉坎（かん），儁艮（ごん），儂坤（こん）の八つ。これらはそれぞれ，天，沢，火，雷，風，水，山，地を象徴する。易はこの八卦を重ねあわせた 64 種類のパターン（64 卦）で占う。

（　　）の思想：天命にかなうものは助けられ，背くものは滅ぼされる→（　　）

諸子百家

（　　・　　）**時代**：前 770 年の周の東遷から秦始皇帝が中国を統一した前 221 年まで。東周時代ともよぶ。また前半の期間のことが魯国の年代記《春秋》に，後半のことが《戦国策》とよぶ書物に書かれているため，前半を春秋時代，後半を戦国時代とよぶ。前 403 年で二分するのは，春秋の大国，晋の家臣であった韓･魏･趙の 3 代が主家を三分独立し，晋は事実上滅亡し，以後戦国の七雄といわれる韓･魏･趙･楚･斉･燕･秦の対立抗争の時代となるから。

（　　）：中国の周末から漢にかけて出現した，諸学者と諸学派の意。

前漢初期，前後して展開した諸子の学術を，**陰陽･儒･墨･名･法･道**の**六家**(りくか)に要約したのは，司馬遷の父，司馬談。さらに前漢後期，すでに国教となって儒家の尊奉した経書は**六芸(りくげい**：**詩･書**，**礼･楽**，**易･春秋**)として別格に扱われていたが，『漢書』芸文志の諸子部門は，六芸からはずされた**儒家**の書(53 家)を筆頭に，**道**(37 家)･**陰陽**(21 家)･**法**(10 家)･**名**(7 家)･**墨**(6 家)と**従横**(12 家)･**雑**(20 家)･**農**(9 家)と小説(15 家)，の 10 家者流 189 家に分類された。うち六芸を補いうるものは，小説家をはぶいた 9 家，つまり**九流**（きゅうりゅう）とされた。また後に九流から独立して兵家も諸子に加えられた。

諸子百家出現の背景

孔子の直後に戦国の諸子百家の時代が始まる。諸子百家とは何か。相次ぐ弱小国家の興亡の結果，亡国の大夫や士が失職し，大量のインテリ浪人が発生した。彼らは再就職の機会を求めて，諸侯の間にみずからの理想を遊説した。いわば**国家経営を専門とするコンサルタントの群れ**である。これが諸子百家にほかならない。儒家の道徳政治説，墨家の兼愛説，法家の法治説，兵家の兵法説，道家の無為自然説など，その説くところは多彩を極める。このように変化に富む思想が一時に現れたのは，以後の中国史にもその例がない。そこには**戦国の無秩序による思想の自由**があった。（平凡社『世界大百科事典』【中国思想】項目より）

諸子百家

学派	思想家	思想内容
儒家	孔子・孟子・荀子	**徳治主義**，人倫を主題とする
道家	老子・荘子・列子	**無為自然**の道や養生を説く
（　　）家	鄒衍（すうえん）	**陰陽五行説**※1 の応用を説く
（　　）**家**	申不害（しんふがい）・商鞅（しょうおう）・韓非子（かんぴし）	道徳よりも法律による支配を重んじる政治を帝王の道とする（法治）主義。始皇帝が採用した。
名家	恵施（けいし）・公孫竜（こうそんりゅう）	名(名辞･概念)と実(事物･実体)との概念分析をおこなった〈名実を正す〉論理学派
墨家	（　　）	**兼愛説**※2 にもとづいて，**非攻**(戦争反対)，節葬(葬儀の簡略化)，非楽(音楽を廃止せよ)をとなえ，「働かざる者は食うべからず」と主張
従横家	蘇秦（そしん）・張儀（ちょうぎ）	従(たて)(南北系)と衡(よこ)(東西系)の国際同盟を唱える外交策
雑家		諸家の説を総合，勘案した学説，学派。また，どの学派にも属さない群小学派
農家	（　　）（きょこう）	生産労働を重んじ国民皆農の〈**君民並耕**〉を説き，農業保護の物価統制策を主張
（　　）家	孫子・呉子	政戦両略の軍事思想

※1　陰陽五行説：中国思想において，陰陽論と五行説とを組みあわせ，宇宙の生成，自然のめぐり，統治のあり方，人体のしくみなど，宇宙から人事にいたるあらゆる現象を説明するのに用いられた理論。さまざまな占いにも応用された。
陰陽：気の大いなるもの，万物を生み出す二大要素。すべての対立し循環するものの二元的原理
五行：万物を生じ，万象を変化させる五気としての木火土金水をいう。木火土金水は，元来は日常生活に不可欠な五つの物質であるが，転じてこれらの物質によって象徴される気，あるいはそのはたらきの意となり，いわゆる五行説として展開する。行とは運行の意で，五つの物質が五行となるのは，天上の五遊星にその名をあてたことに由来する

※2　兼愛説：すべての人間を（　　）に愛すること。墨子は，自分と他人を区別せず，すべての人を愛するならば，争乱はなくなり，人は平和な生活を享受することができ「天下の大利」であると主張。また万人を愛するのは天の意志であるといい，兼愛を道徳上の当為として人に義務づけた。孟子は「父を無みし君を無みする禽獣の愛なり」と排撃している。

2.4.2 儒家思想とその発展

儒家（儒教）Confucianism：春秋末期の思想家，孔子を開祖として戦国期の孟子，荀子などにより思想形成が展開した学派，思想。（　　）の解釈学。

五経　：儒教の五つの基本的な経典，占いの書『易経』，古代帝王の詔勅集『書経』，最古の歌謡集『詩経』，礼儀の説明『礼記(らいき)』，孔子の史観による魯国の歴史『春秋』のこと。いずれも孔子が編纂したといわれてきたが，『詩経』と『書経』以外が揃うのは戦国末の荀子の頃。前漢の武帝のとき儒教が国家公認の学とされ，五経博士がおかれて五経の名が定まった。古く滅びた『楽経』を含めて六経（りくけい）六芸（りくげい）ともいう。

（　　）：**周公**（文王の子，武王の弟）が創始した周の儀礼と式典の音楽，孔子が重視

【孔子の思想】前 551 - 前 479

中国，春秋時代の学者，思想家。名は丘（きゅう）。字は仲尼（ちゅうじ）。魯の昌平郷陬邑（すうゆう＝山東省曲阜県）に生まれる。大司寇（だいしこう：司法長官）として魯に仕えたが，いれられず，辞して祖国を去り，多くの門人を引き連れて，約 14 年間，70 余国を歴訪，遊説。孔子は天に全幅の信頼を寄せて，自らの天命の実現に全力を尽くした。聖王の道（堯，舜，周公の教え）を総合大成し，（　　）の封建制を理想とする（　　）主義を強調した。晩年，教育と著述に専念した。孔子の人柄や思想を伝える，もっとも確実な資料は『（　　）』。

（　　）：孔子の思想の核心。人と人の間に自然に発露する血縁関係を軸にした愛。『論語』にも数多く説かれているが，孔子は定義を限定せず，**忠恕**，**孝悌**，**克己復礼**など様々に論じている。

（　　）：忠（まごころ）と恕（おもいやり）。
「（曾子の曰く，）夫子の道は忠恕のみ」（里仁 15）
恕：「己の欲せざる所は人に施すこと勿れ」（顔淵２）
（　　）：孝（子の親に対する敬愛）悌（弟の兄に対する従順）
「（有子曰く）…孝悌なる者はそれ仁の本たるか」（学而２）
（　　）：己のわがままにうちかって，社会的規範たる礼に従うことが仁である
➡（　　）：仁が外面的に現れた社会的規範　旧字体（　　）
（　　）**主義**：為政者が法や力ではなく，道徳により治めるのが政治の根本だとする思想。
「政を為すに徳を以てせば，譬(たと)えば北辰のその所に居て，衆星のこれに共(むか)うが如し」
（　　）：わが身に道徳的修養をつみ，それによって人を治める。
修身⇒斉家⇒治国⇒平天下

（　　）：学識，人格ともにすぐれた，道徳的にりっぱな人物。〈野人(やじん)〉あるいは〈小人(しようじん)〉の対。《論語》には，〈仁〉字と匹敵する 100 余例の〈君子〉の語が見え，そこでは礼楽文化に身をおき，孝悌秩序をわきまえ，仁･義といった思いやりのある，人として実践すべき積極的な教養を身につけた，士人の〈君子〉の出現をねがっている。儒家思想理想の人間像。

「君子の徳は風。小人の徳は草。草これに風を上(くわ)うれば、必ず偃(ふ)す」（『論語』顔淵篇）
「君子は義に喩(さと)り、小人は利に喩る」（里仁篇）判断の基準の違い。
「君子は器ならず」（為政篇）幅広い教養人。職人ではない。

【孟子の思想】前 372 ころ - 前 289 ころ

中国，戦国時代の思想家。姓は孟，名は軻(か)。字は子輿(しよ)，子車。孔子の生地に近い鄒(すう)(山東省)の人。幼少のころ，母親が教育環境を配慮して三たび転居したこと，いわゆる〈**孟母三遷**〉，遠く遊学した孟軻が帰省するや母親が機(はた)を断ち切って学業を中断すべからざるを説いたこと，いわゆる〈**孟母断機**〉は，広く知られた伝説である。

性善説：人間の本性は善であるとする説。すべての人には**良知良能**という徳を知り実践する能力や，(　　)という道徳の萌芽が備わっており，それを養い育てることによって。四徳（※1）を実現できる。

四端：徳の四つの芽生え		**四徳**
惻隠(そくいん)：あわれみいたましく思う	⇒	(　　)
(　　)(しゅうお)：不善を恥じにくむ	⇒	**義**
辞譲：目上にへりくだり譲る	⇒	(　　)
(　　)：正邪を判断する	⇒	**智**

※1　漢代に董仲舒はこれに**信**を加え，木･火･土･金･水の五行に配して，**五常**と称した。

(　　)：孟子の中心思想。仁義礼智の四徳から，博愛をいう仁と，正義をいう義とを並べて道徳の基本理念とし，仁義を説くことによって，人が自己の人間性を完成させることを期待した。

(　　)：義を繰り返し行ううちに養われる気。これを持つ理想の人物像が（　　）

(　　)：人の重んずべき五つの人間関係。cf.五倫五常は儒教の根本思想
父子の**親**，君臣の（義），夫婦の**別**，長幼の（序），朋友の**信**

(　　)：仁義に基づき民衆の幸福をはかる政治　←→（　　）：力による支配
・「恒産なければ恒心なし」経済的安定が心の安定を産む
・仁義の徳によって**浩然の気**が養われ，それがやがて天地にあふれるような政治

(　　)：有徳者が天命を受けて天下を統治すべきであり，もし徳が衰え民心が離反するようになれば，天命はその者を去って別の有徳者にくだり，ここに王朝の交替が起こる。

【荀子の思想】前 298？ - 前 235 ころ

(　　)**説**：「人の性は悪なり，その善なる者は偽（後天的努力）なり」(『荀子』性悪篇)
人は無限の欲望をもち，放任しておけば他人の欲望と衝突して争いを起こし，社会は混乱におちいるであろう。放任しておくと悪にむかう人の性，それは悪といわざるをえない。

(　　)**主義**：性の悪なる人間を善に導くためには，作為によって規制しなければならない。先王が礼を作ったのは，人の欲望を規制して社会に秩序を確保するためであった。
⇒荀子の弟子，韓非子，李斯は法家の大成者となる

2.4.3 朱子学と陽明学

（　　）学：中国，宋代に興った学問文化。没落した貴族に代わって，新しい時代の担い手となった士大夫によって生み出された。そのうち，正統(儒教)と異端(仏教，道教)とを峻別し，〈修己〉と〈治人〉とを統一して儒教の復興を企てた人々――張載（ちょうさい）(横渠おうきょ)，程標(ていこう)(明道めいどう)，程頤(ていい)(伊川いせん)など――をとくに**道学派**と呼ぶ。南宋の**朱熹(子)**は道学者であるが，その幅広い活躍は宋学の集大成者の名にふさわしい。

朱熹(子) 1130 - 1200：中国南宋の儒者。宋学の集大成者。後にその学問は**朱子学・新儒教**といわれる。主著に『(　　)(ししょしっちゅう)』：，**『近思録』**『朱子語類』など。

⇒　(　　)：『論語』『孟子』『大学』『中庸』の総称（学庸論孟）。儒教思想の真髄を得たものとして宋の朱子学以来尊重される。『大学』『中庸』は『礼記』中の２編

（　　）**二元論**：理（存在するもの＝《気》に秩序を与える原理）と気（ガス上の物質的質料）によって宇宙の存在や人間の道徳規範を説明する説。（＝理気説）朱子学の存在論。

（　　）：人間が天から受けた性は心の中の理であるとし，気質の性から本然の性に復帰することが人間の倫理的課題であるとする説。（＝性理説）朱子学の倫理学，人間学。

心	性（理）＝本性	本然の性	天賦の善性
		気質の性	気の影響を受けた不純な性
	情（気）＝感情	情	感情
		欲	過度な情＝悪

天理

VS

人欲

厳しい人間観
⇒朱子学のリゴリズム（厳格主義）

※朱子学では心を形づくる気は不善への可能性をはらむとみなすので，情＝気の発動いかんによっては本来的に天から賦与されている善性＝理がゆがめられるおそれがあると考える。

（　　）：道徳性を養い磨くことと，知的学問研究を進めること。＝**聖人**となるための方法。

居敬（持敬）：心の修養。心身を集中し本然の性を守ること。存心持敬

窮理（＝格物致知　）：道理の追究，読書，学問などの知識を土台にして事物の理を窮めること。

王陽明（守仁） 1472 - 1528：明代の儒学者，政治家。当時の朱子学に挫折して後に大悟した彼は，朱子学は人間の本来性を抑圧し，人間が固有する自己救済能力を理解していないと強く批判し，〈吾が性おのずから足る〉と主張した。主著『(　　)』。朱子の論敵，陸象山の心即理の思想の影響を受ける。

（　　）：心を性と情に分ける分析を拒否し，性情一体の心がそのまま理であるとする説。⇒　心に内在する理を知るだけで十分であり，外物の理を追い求めるのは無用であるばかりでなく，本心の理を見失う結果を招く。

（　　）：人間の心には先天的に良知が備わっており，この良知を極め尽くすこと，が聖人に至る道であるとする説。

知行合一（ちこう）：良知は当然行為と不可分であるということ。

人間が真に実在するのは一瞬の「今」だけである。知(認識)･行(実行)というも分別し限定して表現しているにすぎない。知行を実践する主体の存在自体が分割不可能な時間の“今”にしか実在しないのだから，朱子学が言うように知･行の両者を知先行後に分別することはできない。

事上磨錬：王陽明による修行のあり方。窮理（学問）や，禅的な静坐によるのでなく，実際のこと（事件）に対処するなかで人格を磨いて練成すること

2.4.4　道家（老荘）思想

老子

道家の開祖とされる人物。生没年不詳。その著述と伝えられる書物も『老子』。と呼ばれる。

（　　）tao：老子の思想の根本概念。一切万物を生成消滅させながらそれ自身は生滅を超えた超感覚的な実在ないしは宇宙天地の理法。無・一・大・玄ともいう。

（　　）：一切の人為をなくし自然のままに生きる。

「道は為すなくして，而も為さざる無し」（〈無為〉とは人為の否定を意味するが，けっして何もしないということではない。それはいっさいの人間的営為を〈偽〉として否定したうえで，天地自然の理法にそのまましたがった真の〈為〉を実現することであり，正確には〈無為の為〉なのである。）

⇒「大道廃れて（　　）あり，智慧出て（　　）あり」　儒学批判　資料 p.79

（　　）：柔和で弱々しくへりくだった態度で他と争わない。理想の生き方。

「天下の柔弱は水に過ぐるものなし」「上善は水の如し。水は万物を利して，而も争わず」

（　　）：老子の説く理想社会。無知無欲な少数の人民が互いに争わず自給自足する小国家。

荘子（荘周）

前 4 世紀頃，戦国時代の思想家。生没年不明。宋の蒙(河南省商邱県)の人。荘周とも称される。故郷の蒙で漆園の管理に携わる小役人を務めるかたわら，名家の恵施（けいし）と親しく交わった知識該博な学者であり，楚王から宰相に迎えられたのも辞退して，おおむね清貧の中で自適の生涯を送ったようである。

（　　**＝斉物論**）：〈道〉の絶対性のもとでは，現実世界における万物の多様性や価値観の相違などのあらゆる差別相が意味をもたなくなること，したがって道の在り方に目覚め道と一体となることによって，個が個としての価値を完全に回復し，何ものにもとらわれない境地に到達できるという論。…斉（ひと）しく同じ

例）胡蝶の夢：自他未分の境地（資料 p.81）

絶対的な道の前では生と死も相対的なもの

⇒おそれることなくすべての運命を受け入れる＝因循主義

（　　＝至人＝神人）：〈道〉のあり方を体得実践することによって真の人間性を回復し，**逍遥遊**の境地で十全の人生を送る人物像。

例）「大鵬」の寓話：逍遥遊の境地

（　　）：心を斎え，坐して我を忘れる

⇒道教へ影響（道教：中国に発生した民族的宗教。仙人となって不死を得ることを窮極の目的とする。教祖に老子を奉じ、道家の所説を主要な教義とするところから道教と称するが、そのほかに、古来の天帝、星辰、山岳などに対する信仰や、民間の俗信を広く取り入れて、多神教的であることに特色があり、教義は陰陽五行説、讖緯（しんい）説、儒教倫理、仏教教理などを含んでいる。わが国には密教と融合して、その祭礼・祈祷が移入され、陰陽道や神道に影響を与えている。広義には老荘思想を含めていう。）

論語の言葉，老荘の言葉などまとめるとよい！